



# 平成28年度 杉並区事務事業評価表（2）

整理番号 095

平成27年度の事業実施状況	内容	規模	単位	事業費（千円）
	(1) 主な取組	アニメーションミュージアム運営業務委託	1	館
	アニメーションミュージアム建物総合管理委託	1	館	9,128
	アニメキャラクターを活用したまち歩きイベント等	2	回	7,250
	その他（アニメ資料収集、キャラクターデザイン委託 ほか）			3,248
(2) 事業実績	<p>杉並アニメーションミュージアムでは、開館10周年記念として、トークショーやワークショップなどの記念イベントを4回実施しました。また、アニメコンテンツを活用したまち歩きイベント「アニメ×ウォーク」を区内アニメ制作会社や商店街などの協力を得て実施したほか、アニメーションミュージアムと民間事業者等との連携事業として、ご当地アニメと連動した展示会、聖地巡礼マップの作成などを行いました。これらの取組により、アニメーションミュージアムの来館者数は、約1か月の臨時休館があったものの平成26年度に比べ約3,900人増加しました。</p>			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>平成12年度に「アニメの杜すぎなみ構想」を策定し、アニメーションフェスティバルやアニメ匠塾（アニメーター人材育成事業）、杉並アニメーションミュージアムの開設・運営を実施してきました。一方、平成22年度の「事務事業等の外部評価（杉並版「事業仕分け」）」での「事業内容の変更をするなど、廃止を含めた抜本的な見直しが必要」という評価結果を受け、「杉並区アニメ施策に関する懇談会」を設置し、アニメ振興施策のあり方と、アニメを活用した商店街の活性化やまちのにぎわいの創出について意見をいただき、一部事業に反映させました。アニメーションミュージアムは、急激に増大するインバウンド等の観光需要に対応するため、展示内容の充実を図るとともに、駅至近の立地への移転の検討を進めていきます。</p>	
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>平成23年度に実施した「杉並区産業実態調査」において、区のアニメーション産業に対する区民の期待として、「区の独自の地域文化として定着する(43.4%)」、「区の知名度が高まる(42.0%)」、「区独自の地場産業として発展する(37.7%)」が上位となっています。また、アニメーションミュージアムの外国人来館者は、平成23年度以降、増加傾向にあります。平成27年度の外国人来館者に対するアンケートでは、6割以上がアニメの製作過程に関する展示に最高評価を付けるという結果でした。このことから、アニメの製作過程等を総合的に学べる施設として評価を得られていると考えられます。</p>	
	今後の予測	<p>アニメを含めたコンテンツ産業の振興については、クールジャパンと呼ばれる国家戦略としても位置づけられ、また、地方ではアニメの舞台をアニメファンが巡る、いわゆる「聖地巡礼」が地域活性化につながるとして注目を集めるなど、アニメの振興と活用は今後も進むものと考えられます。また、練馬区や豊島区をはじめ、多くの自治体が観光客誘致策として、アニメの活用を始めており、今後日本全国でこの動きは加速化されていくと考えられます。「なみすけ」については、商用利用促進のため行った商標登録により、商品化許諾件数は増加していく見込みであり、このことで「なみすけ」の認知度が更に高まっていくものと考えられます。</p>	
評価と課題	<p>世界的に評価が高い日本のアニメは、東京オリンピック・パラリンピック開催等を契機に東京を訪れる多くの外国人を含め、観光面での誘客を図る上で有用なコンテンツです。今後、更にアニメ制作会社や商店街、産業団体等と連携を深めることで、特に区へ観光客を誘致するための観光のツールとして活用し、にぎわい創出と経済の活性化につながる取組を進めます。なお、アニメーションミュージアムについては、外国人を含む来館者が増加している状況や急激に増大するインバウンド等の観光需要に対応し、観光資源としての魅力を高めるため、展示内容の充実を図るとともに、駅至近の立地への移転の検討を進めていきます。</p>		
中長期な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	拡充
		II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・実施主体の見直し
	今後の進め方	<p>商店街活性化やまちのにぎわいにつなげていくため、特にインバウンド等の誘客を図る観点から、アニメーションミュージアムの多言語化等、事業全体の充実化を図り、それを積極的に国内外に発信する取組を進めていきます。また、アニメーションミュージアムは、駅至近の立地への移転の検討を進めていきます。区公式アニメキャラクター「なみすけ」は、商用利用等の促進により、これまでの行政主体の取組から民間を主体とする取組へと裾野を広げ、地域産業の活性化に資するツールとして活用を進めていきます。</p>	



# 平成28年度 杉並区事務事業評価表（2）

整理番号 096

平成27年度の事業実施状況	内容	規模	単位	事業費（千円）
	(1) 主な取組	中央線あるあるプロジェクト（「にぎわい・商機」創出プログラム）	1	件
	観光事業補助（東京高円寺阿波おどり）	1	件	2,000
	すぎなみ学倶楽部の運営	1	件	7,519
	杉並ナンバーの周知・普及			1,580
	その他（観光PR）			325
(2) 事業実績	<p>区外からの誘客を図り「にぎわい・商機」に繋がる観光事業を推進するため、「中央線あるあるプロジェクト」において、新聞等の広告掲載やWEB・フェイスブックによる情報発信、シンボルイベント（高円寺フェス）の共催、インバウンド対応策として、英語版WEBの開設、飲食店メニュー英語化（阿佐谷エリア200店）、英語落語イベント等を実施しました。</p> <p>また、区民目線で区内の魅力を紹介する「すぎなみ学倶楽部」の運営や、フィルムコミッションの推進、区内の無料Wi-Fiスポットの実地調査等に取り組みました。</p>			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>平成24年度：商店街振興を図る観点から都市観光事業を開始。平成25年5月：「にぎわい・商機」創出プログラム「中央線あるあるプロジェクト実行委員会」発足。平成26年度：新たに都市観光事業の専管組織（観光係）を設置。</p> <p>平成27年の訪日外国人旅行者数及び消費額は、それぞれ約1,974万人（対前年比約47.1%増）、約3兆4,771億円（対前年比約71.5%増）、また、平成27年の訪都外国人旅行者数及び消費額は、それぞれ約1,189万人（対前年比約34.0%増）、約1兆1,150億円（対前年比約42.0%増）と前年から急増し、国も都も過去最高を記録しています。これらの急激なインバウンドによる観光需要の増大を受け、国や都も新たな観光ビジョン等の策定を進めました。</p>
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>「中央線あるあるプロジェクト」については、実行委員会形式で実施していることに関して実施の主体や、あるあるプロジェクトの取組との連携の申し出等に関する問い合わせが寄せられています。また、他の自治体からも視察の希望や問い合わせが増えています。</p>
	今後の予測	<p>今後、2020年東京オリンピック・パラリンピックや2019年ラグビーワールドカップの開催、円安、ビザ発給緩和等による訪日外国人旅行者増などから、国内外より東京都を訪れる観光客の増加が見込まれます。特に訪日外国人旅行者に関しては、旅行者数の急増を受けて国が目標値を上方修正するなど、2020年以降も持続的に増加していくことが想定されています。これに併せ、消費額に関しても伸びが予測されています。</p>

評価と課題	<p>区外からの誘客を図るため「中央線あるあるプロジェクト」や「すぎなみ学倶楽部」等により、杉並の魅力を積極的に発信し「にぎわい・商機」の創出に向け取り組みました。今後も持続的に増加が見込まれる訪日外国人旅行者を区内へ誘引するため、多様な媒体を活用した観光情報の発信、イベントや日本の文化を体験できる企画旅行の実施等、インバウンドに繋がる事業を積極的に推進します。</p> <p>また、観光事業の推進を戦略的かつ効果的に推進するためには、事業の成果を客観的な数値に基づき評価することが必要なことから、マーケティングの充実に努めます。</p>
-------	--

中長期な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	拡充
		II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・実施主体の見直し
	今後の進め方	<p>今後、都を訪れる旅行者、とりわけ外国人旅行者の持続的な増加が見込まれることから、「中央線あるあるプロジェクト」などの既存事業の拡充に加え、観光パンフレット等の多言語化の推進、多様な媒体を活用した観光情報の積極的なPR、区内のイベントや日本の文化を体験できる企画旅行の実施、海外現地で情報を発信する観光大使事業の実施など、総合的に観光事業を推進していきます。</p> <p>また、観光事業の推進には、「旅行者のニーズの把握」や受け入れ側である「地域の熱意」が必要です。このため、区は、情報発信や観光資源の発掘・開発・商品化支援などに注力するとともに、商店街等と緊密に連携を図りながら、主体的に取り組む地域に対し側面から支援を行います。</p> <p>なお、事業の成果を数値に基づき評価することが必要であることから、マーケティングの充実に努め、戦略的かつ効果的に事業を推進していきます。</p>	

# 平成28年度 杉並区事務事業評価表 (1)

( 00364 )

事務事業名称 景観まちづくり			款 05	項 01	目 02	事業 003	整理番号 375		
現担当課名 まちづくり推進課		係名 まちづくり景観係			連絡先 電話番号 3362		昨年度 整理番号 383		
上位施策No・施策名 06 魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり						予算事業区分	既定事業		
事業開始 平成元年度		実行計画事業 目標 02 施策 06 計画事業 03			主要事業 (区政経営報告書掲載事業)				
平成27年度 担当課名 まちづくり推進課					事業評価区分 一般				
事務事業の概要	対象 区民、事業者、公共団体 杉並区の景観		根拠法令等 (1) 景観法 (2) 都市計画法						
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか) ○景観に対する区民の意識を高め、自主的に景観づくりに取り組む風土を醸成する。 ○魅力あるまちなみを創出する。 ○みどり豊かな杉並のまちを歩くことにより、新しいまちの魅力を見出し、まちに親しみを持つ人を増加させる。		活動指標 指標名 (1) 景観新聞の発行部数 指標説明 指標名 (2) 景観まちづくりイベントの参加者数						
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段) ○景観条例、景観計画に基づく届出や事前協議等により、みどり豊かな美しい住宅都市を将来にわたり継承する。 ○杉並景観録の発行や景観まちづくりイベントを開催する。 ○史跡指定された荻外荘の復原整備を進めるとともに、建物一部公開イベントや荻外荘懇談会の開催により地元地域の機運醸成を図る。 ○まち歩きのためのすぎなみ景観ある区マップを発行する。		成果指標 指標名 (1) 杉並区のまちを美しいと思う人の割合 指標説明 指標名 (2) 指標説明		区民意向調査による				
区分		単位	平成25年度 実績	平成26年度 計画 実績		平成27年度 計画 (目標値) 実績		平成28年度 計画	平成27年度 対計画比 (%)
指標	活動指標 (1)	1 部	5,000	5,000	6,000	5,000	6,000	5,000	120.0
	活動指標 (2)	2 人	2,500	2,500	2,500	2,500	1,500	2,000	60.0
	成果指標 (1)	3 %	78.5	80	78.0	80	78.9	80	98.6
	成果指標 (2)	4							
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	6,050	3,649	3,254	15,050	14,072	7,706	平成27年度 予算執行率 (%) 93.5 特記事項
	(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	
	(内) 委託費	7 千円	3,288	1,145	897	10,950	10,637	2,055	
	職員数	常勤職員数	8 人	4.07	3.00	3.45	3.50	3.99	3.50
		再任用職員数	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		非常勤職員数	10 人	1.00	1.00	1.00	0.50	0.50	0.50
	人件費	常勤職員分	11 千円	35,124	26,430	30,395	30,835	34,901	30,615
		再任用職員分	12 千円	0	0	0	0	0	0
		非常勤職員分	13 千円	2,780	2,830	2,830	1,415	1,468	1,468
	総事業費 (5+11+12+13)	14 千円	43,954	32,909	36,479	47,300	50,441	39,789	
	単位当たりコスト ((14-6)÷1)	15 円	8,791	6,582	6,080	9,460	8,407	7,958	
	財源	受益者負担分	16 千円	77	127	88	107	76	107
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0
		都からの補助金等	18 千円	0	0	0	0	0	0
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0	
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円	77	127	88	107	76	107	
差引：一般財源 (14-20)		21 千円	43,877	32,782	36,391	47,193	50,365	39,682	
受益者負担比率 (16÷14)	22 %	0.2	0.4	0.2	0.2	0.2	0.3		

# 平成28年度 杉並区事務事業評価表（2）

整理番号 375

平成27年度の事業実施状況	内 容		規模	単位	事業費（千円）
	(1) 主な取組	景観法に基づく行為の届出		189	件
景観まちづくりイベントの開催		1,500	人	218	
荻外荘保存活用計画策定				10,636	
「すぎなみ景観ある区マップ～高井戸・浜田山」等の発行		39,000	部	1,335	
その他（杉並景観録（第21号）の発行ほか）				1,833	
(2) 事業実績	<p>策定後6年を経過した杉並区景観計画については、杉並区まちづくり景観審議会の意見を伺いながら改定案を作成し、区民等の意見提出手続きを実施しました。また、届出と事前協議の運用をはじめ、イベント開催等の普及啓発にも取り組み、杉並らしい景観づくりを着実に進めました。まちの魅力を再発見するための「すぎなみ景観ある区マップ（高井戸・浜田山編）」を発行しました。荻外荘については、荻外荘保存活用計画の検討を進めるとともに、荻外荘懇談会を開催し、復原整備に向けた地元の機運醸成に取り組みました。</p>				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>事業開始当初から景観の普及啓発を主な事業として取り組んできましたが、平成21年度に景観行政団体となり、平成22年6月から杉並区景観計画の運用を開始し、景観法に基づく届出制度等による景観づくりを始めました。景観は、杉並のまちに魅力を感じる指標の一つとして考えられ、区民意向調査で杉並区のまちを美しいと思う人の割合も7割を超え、着実に増加しています。ある区マップは毎年増刷するほど好評なことから、区民のまちに対する関心が高まっていることが伺えます。</p>		
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>歴史的建物や貴重な樹木など、杉並の面影を伝えるまちなみの保全が求められています。派手な色彩の建物や経済性重視の建物に対しては、計画段階から良好なまちなみにふさわしい計画に誘導していく必要があります。また、規制だけではなく、区民、事業者が自ら景観に関心を持ち、自主的に景観づくりに取り組む機運醸成を図ることが大切です。</p>		
	今後の予測	<p>杉並区景観計画の主旨が多くの区民、事業者に浸透することで、自らまちを美しくしようという意識がさらに高まっていくことと思われます。</p>		
評価と課題	<p>景観計画の運用開始後、民間や公共の建築行為等について、延1,146件の届出があり、事前協議を180件行いました。これにより、区民や事業者に景観に配慮する姿勢が徐々に浸透してきました。また、平成28年度に改定する景観計画に基づき、事前協議の運用方法について見直しを行い、実効性のある仕組みを構築します。荻外荘は、平成28年3月1日に国の史跡指定を受けました。今後は、荻外荘保存活用計画の策定を踏まえ、復原・整備を始め、情報発信や機運醸成等の具体的な取組を進めていきます。</p>			
中長期な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	拡充	
		II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・実施主体の見直し・対象の見直し	
	今後の進め方	<p>景観法に基づく届出の運用により、美しいまちなみづくりに効果を上げています。しかし、建物の外壁の塗替えなどについては、届出が行われないケースが見受けられるため、今後はHP等により届出制度の周知を図ります。また、区民一人ひとりの景観に対する意識を高めるため、普及啓発の充実を図ることで、みどり豊かな美しい住宅都市を将来へ継承していきます。また、平成28年度に予定している景観計画の改定に伴い、事前協議の運用をより実効性の高い仕組みに見直します。荻外荘については、保存活用計画を踏まえた整備計画の策定等、復原・整備の取組を進めます。また、荻外荘の復原・整備に向けた機運醸成を図るため、荻外荘懇談会の開催、各種イベントの開催及び寄附金募集等に取り組めます。</p>		

# 平成28年度 杉並区事務事業評価表 (1)

( 00368 )

事務事業名称 都市再生事業			款 05	項 01	目 02	事業 007	整理番号 379				
現担当課名 まちづくり推進課			係名 荻窪まちづくり担当係			連絡先 電話番号 3382	昨年度 整理番号 387				
上位施策No・施策名 06 魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり						予算事業区分	既定事業				
事業開始 平成23年度		実行計画事業 目標 02 施策 06 計画事業 01			主要事業 (区政経営報告書掲載事業)						
平成27年度 担当課名 まちづくり推進課					事業評価区分 一般						
事務事業の概要	対象 荻窪駅周辺地区		根拠法令等 (1) 都市計画法 (2) 杉並区まちづくり基本方針、杉並区まちづくり条例								
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか) ○杉並区が「住宅都市」としての価値をさらに高めていくためには、区内最大の交通結節点である荻窪駅周辺地区の活性化が不可欠である。地域特性を活かした商業の活性化や生活利便性の向上などを図り、にぎわいや魅力あるまちづくりを進める。		活動指標 指標名 (1) 地元住民や各種団体、関係事業者等との打合せ回数 指標説明 指標名 (2) 普及啓発活動等の回数								
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段) ○「住宅都市杉並」にふさわしい荻窪駅周辺地区のまちづくりを進めるために、まちの課題等を整理・共有するとともに、地域住民との協働により、まちづくりに対する機運の醸成を図り、将来のあるべき姿を描くための検討を進める。 ○地域住民との協働により、荻窪駅周辺地区の特性を活かしたまちづくりを進めていく。 ○南北分断の解消と都市機能のさらなる強化に向けて幅広い観点から検討を行い、国や都、鉄道事業者等と協議・調整をしながら、まちづくりを進める。		成果指標 指標名 (1) 駅周辺まちづくり計画等の策定数 指標説明 平成23年度からの累計策定数 指標名 (2) 指標説明								
区分		単位	平成25年度 実績	平成26年度 計画 実績		平成27年度 計画 (目標値) 実績		平成28年度 計画	平成27年度 対計画比 (%)		
指標	活動指標 (1)		1 回	30	30	31	13	19	15	146.2	
	活動指標 (2)		2 回	3	4	3	4	3	3	75.0	
	成果指標 (1)		3 件	0	1	0	1	0	1	0.0	
	成果指標 (2)		4								
総事業費・コスト把握	事業費		5 千円	12,129	12,947	12,300	7,452	7,232	19,990	平成27年度 予算執行率 (%) 97.0	
	(内) 投資的経費等		6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 ※荻窪駅周辺まちづくり計画等の策定数を成果指標としていますが、平成28年度までに1件の策定が目標です。	
	(内) 委託費		7 千円	9,772	10,076	10,070	5,171	5,137	17,316		
	職員数	常勤職員数		8 人	3.33	3.00	3.37	3.00	3.77		3.00
		再任用職員数		9 人	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00		0.00
		非常勤職員数		10 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00
	人件費	常勤職員分		11 千円	28,738	26,430	29,690	26,430	32,976		26,241
		再任用職員分		12 千円	3,860	4,050	4,050	4,050	4,139		0
		非常勤職員分		13 千円	0	0	0	0	0		0
	総事業費 (5+11+12+13)		14 千円	44,727	43,427	46,040	37,932	44,347	46,231		
	単位当たりコスト ((14-6)÷1)		15 円	1,490,900	1,447,567	1,485,161	2,917,846	2,334,053	3,082,067		
	財源	受益者負担分		16 千円	0	0	0	0	0		0
国からの補助金等		17 千円	0	0	0	0	0	0			
都からの補助金等		18 千円	0	0	0	0	0	0			
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0			
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円	0	0	0	0	0	0			
差引：一般財源 (14-20)		21 千円	44,727	43,427	46,040	37,932	44,347	46,231			
受益者負担比率 (16÷14)		22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

# 平成28年度 杉並区事務事業評価表（2）

整理番号 379

平成27年度の事業実施状況	内 容		規模	単位	事業費（千円）	
	(1) 主な取組	荻窪まちづくり会議運営等支援業務委託		1	件	4,999
		その他（管理経費、消耗品購入費ほか）				2,233
(2) 事業実績	<p>荻窪駅周辺地区のまちづくりを地域との協働で進めていくため、地域住民の方々が主体となった「荻窪まちづくり会議」によるまちづくり将来構想策定に向けた検討、及びその活動を周知する「荻窪まちづくり通信」の発行等の支援を行いました。こうした取組を通じて、荻窪まちづくり会議により「荻窪駅周辺地区まちづくり構想」が取りまとめられ、平成27年12月、区に提案されました。</p>					

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>平成23年度は、これまでの荻窪駅周辺まちづくりのあり方を検証するとともに、区を中心拠点として活性化を図るためのまちづくりの方向性や事業手法等を検討する「荻窪駅周辺まちづくり基礎調査」を行いました。</p> <p>平成24年度は、多くの区民から意見を頂くための区民意見交換会や荻窪まちづくり懇談会の開催、まちづくりの課題解決のヒントとするためのアイデアコンペなどを開催しました。</p> <p>平成25年度からは、荻窪駅周辺の地域住民の方々が主体となった「荻窪まちづくり会議」の設立・運営等の支援を行い、平成27年12月、「荻窪駅周辺地区まちづくり構想」が区に提案されました。</p>	
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>鉄道や幹線道路による市街地の分断解消や、駅及び駅周辺の交通機能や利便性の向上、買い物や飲食の機会の一箇所集中によるまちの回遊性の不足などが挙げられる一方、良好な住環境については、維持・保全を求める声も多くあります。</p>	
	今後の予測	<p>今後は、「住宅都市杉並」にふさわしい荻窪駅周辺地区のあるべき姿を描き出すため、荻窪の地域に根ざした歴史や伝統といった良いところは継承しつつ、一方で時代の変化を捉えて新しいまちづくりに挑戦するなど、地域や関係事業者等の声を聞きながら、幅広い観点からハード・ソフトの両施策を駆使し、まちづくりを進めていく必要があります。そのために、地域住民の方々が主体となった「荻窪まちづくり会議」からの「荻窪駅周辺地区まちづくり構想」の区への提案等を踏まえ、区としてのまちづくり方針の策定に取り組めます。</p>	
評価と課題	<p>「荻窪まちづくり会議」への運営等支援を通じ、地域発意のまちの将来像として「荻窪駅周辺地区まちづくり構想」が取りまとめられ、区に提案されました。</p> <p>荻窪駅周辺地区のまちづくり推進にあたっては、地域や関係事業者等とまちの将来像を共有し、連携して取り組んでいく必要があります。そのため、まちづくり構想の区への提案等を踏まえ、今後、当該地区のランドデザインの役割を担う、区としてのまちづくり方針を策定していきます。</p>		
中長期な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
		II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
	今後の進め方	<p>荻窪駅周辺地区のまちづくりの更なる推進を図るためには、地域や関係事業者等との連携が不可欠です。そのためには、常に区の情報を発信し、地域や関係事業者等と情報共有を図りながら取組を進めていく必要があります。</p>	

# 平成28年度 杉並区事務事業評価表 (1)

( 00369 )

事務事業名称 多心型まちづくりの推進			款 05	項 01	目 02	事業 008	整理番号 380			
現担当課名 まちづくり推進課			係名 拠点整備係			連絡先 3383 電話番号	昨年度 388 整理番号			
上位施策No・施策名 06 魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり						予算事業区分	既定事業			
事業開始 昭和44年度			実行計画事業 目標 02 施策 06 計画事業 02			主要事業 (区政経営報告書掲載事業)				
平成27年度 担当課名 まちづくり推進課						事業評価区分	一般			
事務事業の概要	対象 区民及び駅周辺地域来訪者 再開発事業などの民間再開発を行おうとする者 鉄道事業者			根拠法令等 (1) (2)		都市計画法、都市再開発法				
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか) ○駅周辺地域を中心に、地域特性を活かしたにぎわいと多彩な魅力のあるまちづくりを進める。 ○民間再開発事業等を支援する。			活動指標 指標名 (1) 指標説明		駅周辺まちづくりに関する懇談会・意見交換会等の開催数 26年度まで「駅周辺整備に関する相談・指導回数」				
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段) ○ハード施策とソフト施策の連携の強化により、地域特性を活かしたまちづくりを推進する。 ○駅周辺の交通利便性・安全性を高めるための施設整備を推進する。 ○駅に直結する自由通路、付属するエレベーター等を維持する。 ○まちづくりの相談や指導を通して、地権者の組織化等の活動を支援する。 ○助成制度を活用し、民間再開発事業の活動を支援する。			指標名 (2) 指標説明		駅周辺まちづくりに関するニュース等の発行回数 26年度まで「駅周辺の現地調査・打合せ回数」				
				成果指標 指標名 (1) 指標説明		駅周辺まちづくり方針等の策定数 26年度まで「駅周辺整備等の事業数」				
			指標名 (2) 指標説明		(27年度～) 指標廃止					
区分		単位	平成25年度 実績	平成26年度 計画 実績		平成27年度 計画 (目標値) 実績	平成28年度 計画	平成27年度 対計画比 (%)		
指標	活動指標 (1)	1 回	75	100	96	3	3	4	100.0	
	活動指標 (2)	2 回	65	70	81	1	0	3	0.0	
	成果指標 (1)	3 件	0	2	0	2	0	1	0.0	
	成果指標 (2)	4								
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	53,964	10,844	7,196	20,748	14,434	15,486	平成27年度 予算執行率 (%) 69.6	
	(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 ・阿佐ヶ谷駅周辺でまちづくり方針策定に取り組んだことや西荻窪平和児童遊園の補修等工事のため事業費が増加しました。 ・ハード・ソフト連携の取組では、高円寺のトランスボックスヘラッピングのモデル実施を行いました。他地区で予算を要する取組が少なかったことなどから執行率がやや低くなっています。 ・駅周辺の施設整備が概ね完了したことから指標を見直しました。	
	(内) 委託費	7 千円	3,938	7,664	6,491	15,241	12,513	9,234		
	職員数	常勤職員数	8 人	3.19	3.00	3.40	3.00	3.56		0.00
		再任用職員数	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00
		非常勤職員数	10 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00
	人件費	常勤職員分	11 千円	27,530	26,430	29,954	26,430	31,139		0
		再任用職員分	12 千円	0	0	0	0	0		0
		非常勤職員分	13 千円	0	0	0	0	0		0
	総事業費 (5+11+12+13)	14 千円	81,494	37,274	37,150	47,178	45,573	15,486		
	単位当たりコスト ((14-6)÷1)	15 円	1,086,587	372,740	386,979	15,726,000	15,191,000	3,871,500		
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0	0		0
国からの補助金等		17 千円	0	0	0	0	0	0		
都からの補助金等		18 千円	22,936	0	0	0	0	0		
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0		
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円	22,936	0	0	0	0	0		
差引：一般財源 (14-20)		21 千円	58,558	37,274	37,150	47,178	45,573	15,486		
受益者負担比率 (16÷14)	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

# 平成28年度 杉並区事務事業評価表（2）

整理番号 380

平成27年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
		阿佐ヶ谷駅等周辺まちづくり方針案策定等支援業務委託	1	件	4,968
		西荻窪平和児童遊園補修等工事	1	件	4,968
		高円寺トランスボックスラッピングモデル実施	3	か所	713
		観光まちづくりシンポジウムの開催	2	回	858
		その他（エレベーター保守管理委託、事務費ほか）			
平成27年度の事業実施状況	(2) 事業実績	<p>阿佐ヶ谷駅・南阿佐ヶ谷駅周辺まちづくりでは、区民意見交換会や庁内の研究会を開催し、方針の策定に向けて取り組みました。西荻窪駅周辺まちづくりについては、地域からの提案を受けた西荻窪平和児童遊園の補修等を通じて、地域主体のまちづくりの取組を支援しました。6地区で行っているハード・ソフト連携まちづくりについては、高円寺駅周辺のトランスボックスのラッピング事業のモデル実施を行うなど、地域活性化の取組を行いました。また、杉並らしい地域資源を活かしたまちづくりの普及啓発のため、観光まちづくりシンポジウムを開催しました。</p>			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	事業開始当初は、駅舎の橋上化や市街地再開発事業等に代表される駅周辺整備を事業の中心にしていました。現在は、それらに加えハード・ソフト連携まちづくりの取組により、各地区の特性や課題に応じたまちづくりを進めています。
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	再開発の事業施行者からは、事業推進に向けての助成の拡充を望む声があります。その一方で、近隣住民からは、再開発により、住環境が著しく変化することが予想されるため、周辺住宅地等に及ぼす影響が大きいとの意見があります。
	今後の予測	マンション等の老朽化が進みつつあり、今後はマンションの建替え等の課題がより顕在化することが予想されます。また、近年の建設費の高騰等により、市街地再開発等の事業を取り巻く環境は厳しいことが予想されます。

評価と課題	<p>阿佐ヶ谷駅・南阿佐ヶ谷駅周辺地区については、公共・公益施設など更新時期を迎えている建物が多くあることや、地域主体のまちづくりの動きが活発化している状況などを踏まえ、まちづくり方針の検討を進め、中間のまとめに目処をつけることができました。今後はさらに地域の方々から意見を聞き、まちづくり方針の策定に取り組みます。</p> <p>ハード・ソフト連携まちづくりについては、様々な機会を通じて地域の課題や要望、まちづくりへの想いなどを掘り起こすとともに、可能なものについては速やかにその実現を図っていきます。</p> <p>また、観光まちづくりについては、杉並区における地域資源の掘り起こしをさらに進めるとともに、シンポジウム等を通じて、魅力的な観光資源の発信と定着を更に進めていきます。</p>
-------	---

中長期な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
		II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
	今後の進め方	<p>阿佐ヶ谷駅・南阿佐ヶ谷駅周辺まちづくりについては、まちづくり方針を策定するとともに、方針に掲げた将来像の実現に向けて、個別地区のまちづくりにつながるよう取組を推進します。</p> <p>ハード・ソフト連携まちづくりについては、これまで実施した取組が地域の活性化に着実につながるようフォローするとともに、連携の取組を一層強化し新たな地域課題に機敏に対応していきます。</p> <p>また、観光まちづくりについては、観光を所管する産業振興センターとも連携し、さらなる地域資源の活用に向けた取組を進めます。</p>	